

平成25年度博物館施設評価集計シート
(年度末)

施設名 歴史と民俗の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

数値化共通項目(全館共通)

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	428	人	B	451人×95% 開館日数:311日 総観覧者数:119,953人	
				386	人			
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	129	人	B	136人×95% 開館日数:311日 総観覧者数:34,897人	
				112	人			
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	266	件	A	213件×125%	
				268	件			
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	341,480	件	A	213,425件×160% 更新264回	
				555,806	件			
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	647	件	A	412件×157% 掲載件数307件	
				832	件			
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	22,516,000	円	C	当該年度予算計上額 観覧料6,564,350円 その他7,448,135円	
				14,012,485	円			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

必須項目(全館共通)

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	12	件	A	別紙チェックリストによる	
				12	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる	
				17	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				12	件			
9	施設の活用	施設の利用・活用	施設の利用・活用状況	6	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

館別独自項目

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠 特記事項
				達成度			
1	魅力ある 展示	特別展・企画展事業 の実施	歴史・民俗・古美術をテーマとした 全国レベルの特別展・企画展の 実施状況	8	件	A	別紙チェックリストによる
				8	件		
2	中核的施設 の役割	中核的施設としての 活動	中核的施設としての活動状況	6	件	A	別紙チェックリストによる
				6	件		
3	多様な学習支援プログラム の提供	ゆめ・体験ひろばの 運営	機能や特色を生かした体験プログラム の実施状況	8	件	A	別紙チェックリストによる
				8	件		
4	文化遺産の次世代 継承	伝統文化の記録・公開・継承	記録・公開・継承事業の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる
				6	件		

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	①他機関との連携による出張展示活動の企画・実施 ②夏期企画展「絵で語る埼玉の民話」ワークシートの実施 ③学校団体利用促進 ④学校への出前授業の本格実施 ⑤地域社会との連携 ⑥正月開館
事業の成果	①サイクリングフェスティバル・イベントブースへの出展(陸船車展示)による広報活動の実施(観覧者727人)、久喜図書館内に展示コーナー設置、久喜図書館主催「お話し会」への協力(民具の紹介) ②夏期企画展「絵で語る埼玉の民話」展に合わせた子供向けワークシートの実施(参加者678人) ③学校団体利用72校(小学校50校、中学校9校、高等学校8校、特別支援学校5校) ※24年度61校 ④出前授業(19校実施) ※24年度2校(試行) ⑤ミュージアムヴィレッジ大宮公園での8施設との連携 ⑥正月開館実施(2～5日・来館者数3,696人)

基礎データ

職員数 (学芸員数)	36人 (22人)	総予算額 (人件費を除く)	104,621,000円 (2月補正後64,506,000円)	職員一人あたりの県民人口	20万人
収蔵資料総点数	121,970点	事業経費 (上記の内数)	72,176,000円	利用者一人あたりのコスト (平成24年度)	795円
平成24年度 収集資料点数	258点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	22,516,000円 (2月補正後14,846,000円) 10,527,750(円) (2月補正後6,315,750円)	県民人口に対する利用者割合 (平成24年度)	1.76%

(注)平成25年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,207,748人である

平成25年度 博物館施設 総合評価

施設名 歴史と民俗の博物館

	A評価	B評価	C評価
数値化共通項目	3	2	1
必須項目	9	0	0
館別独自項目	4	0	0
総合評価	93%【53点÷(19項目×3点)×100%】		

自己評価総括

評価	<p>・入館者数、常設展観覧者数共に、目標を下回った。夏季までの入館者が大きく落ち込み、10月以降全館で入館者増に向けた様々な取り組みを行った結果、一時は昨年度並みの水準まで回復したが、2月以降は大雪の影響等もあり、最終的には目標達成に至らなかった。</p> <p>・学校団体利用の促進、出前授業の本格実施を通して、学校団体の利用数が飛躍的に増大した。</p> <p>・65歳以上の入館料が有料となったが、常設展示室の魅力アップに取り組み、各種講演会・講座で展示室観覧を働きかけることなどによって展示観覧者が増加した結果、入館料収入も大きく増加した。</p> <p>・必須項目、館独自項目については全てA評価であったが、チェックリストでは展示ガイドの作成、民俗工芸・地場産業の記録化は今年度達成できなかった。</p>
課題	<p>・入館者、展示観覧者の増加</p> <p>・時宜に適った企画の実施</p> <p>・学校の団体利用のさらなる増加</p> <p>・公開データベースの更新</p>
対応の方向	<p>・25年度秋以降実施している入館者及び収入の確保に向けた取り組み(職員の意識向上と広報の充実、団体利用の増加、入館者に占める展示室観覧者の増加、常設展示室の魅力アップ、各講演会・講座参加者へ展示室観覧推奨・図録購入案内、イベント・体験メニュー充実)を引き続き実施していくこと。</p> <p>・公開データベースについては、サーバーの移行を検討中でハード面の整備が課題となっているが、26年度には更新が見込まれている。</p>

評価委員総括

評価小委員コメント

- ・入館者の伸び悩みは博物館にとって大きな問題である。特に常設展示を中心とした展示観覧者数の低迷は博物館活動の基盤を揺るがすものとして、その実態と要因を正確に分析・整理し、学芸・管理一体となった対応策の検討を進め、可能なものから実施を図っていく必要がある。そのためには改めて県立博物館(それも中央館としての)の役割と機能を見つめ直し、市町村関連機関と連携した地道な調査研究と情報収集活動に時間を割き、常に新鮮な博物館情報を展示に反映させていくシステムを再構築して行く必要があるように思われる。展示・普及事業プログラムの充実と拡大は、これを置き去りにしては考えられない。
- ・学校団体利用や出前事業など学校連携事業の推進・拡大を評価したい。また常設展示の工夫や積極的な広報活動が今後の入館者増加に繋がるよう継続的に工夫や情報発信をお願いしたい。さらに量的評価だけでなく、満足度の高い講座や企画展示の実施など博物館の魅力アップのために、学芸員の調査研究活動・成果公開の推進も図っていただきたい。
- ・総合的評価として、まずまずの成果を収めたと言える。今年度より、65歳以上の入館料が有料化されたため、入館者数の減少が懸念された。しかしながら、学校団体利用の促進や正月開館など新たな取り組みへの努力により、昨年度比5%(約7,000名)減に抑えられた上、観覧料・事業収入に関しては設定金額をかなり下回ったものの、昨年比29%(約310万円)増としたことや、ホームページアクセス件数の増加などは評価に値する。今後も、調査研究事業を疎かにすることなく、新たな取り組みに期待したい。